

【仮称】大分市国際化・多文化共生推進計画【第5次大分市国際化推進計画】（案）の市民意見公募に寄せられたご意見の要旨と本市の考え方

意見提出期間	令和6年12月16日（月曜日） ～令和7年1月15日（水曜日）
意見提出者数	5名
意見件数	12件

番号	関連項目	意見（要旨）	意見に対する本市の考え方
1	計画全般	この計画を翻訳し、外国人にも周知することが必要ではないか。	概要版について多言語化に取り組み、大分市ホームページで外国人住民にも分かりやすくプランの内容を周知するとともに、今後の取組に意見をいただけるように努めてまいります。
2	第3章 国際化・多文化共生の現状	戦国時代中期の大友宗麟の時代には、豊後府内の地はヨーロッパ諸国との南蛮貿易で繁栄し、当時のヨーロッパの先進的な文化が積極的に取り入れられた。もともと大分市は海外の文化などを都市の活力として受け入れる寛容さを持った都市であり、大分市の国際化を考えるうえで、こうした歴史背景にも触れるべきではないか。	計画を策定するにあたり踏まえるべき視点として、本市を取り巻く状況や社会情勢のほか、本市の特色についても重要であると考えております。歴史特色なども踏まえたうえで素案を策定しておりますが、市を取り巻く環境として記載いたしておりませんでした。計画の背景として必要な記載となりますので、大分市の特徴や現状として文言を追加いたします。
3		大分市は姉妹都市「オースチン」という名称を使っているが、ウェブサイト上では「オースティン」と表記しているものが大多数を占めているので、呼び方を改めてはいかがか。	近年、一般的には「オースティン」という呼称が使用されており、表記の取扱いについてご意見のとおり変更いたします。

4		大分市に誇りをもち、多様性を力に変えることのできる寛容性と柔軟性をもった人材を育てることと、市民が海外の活力を取り込みチャレンジしようとする事への支援について、行政が積極的に取り組んでいただきたい。	「ひとづくり」や「海外とつながり発展する」という視点は、推進テーマにも掲げており、非常に重要であると認識しております。一層加速するグローバル化の中で、本市が持続的に発展するために、本計画に掲げる各施策を推進してまいります。
5	第5章 施策の方向性と施策	地域日本語教室は、単に「日本人にとって日本語を教える場、外国人にとって日本語を教わる場」とどまらず、「日本語学習」を中心として地域住民同士の接点を持つ場として機能することが期待される。計画中で、そうした機能について触れられていないが、学習の場としての一面だけが充実すれば良いという考えなのか。	いただいたご意見のとおり、地域日本語教室は、外国人住民の居場所や地域社会への入口、地域住民との交流の場として機能しており、その役割は今後も重要となってきます。ご意見をふまえ、現状と課題を修正します。
6	第5章 施策の方向性と施策 施策1-2：生活支援	外国にルーツがある子どもたちの各種相談はどこでできるのか。	子どもに特化した相談窓口はございませんが、教育分野、保育分野など、内容に応じて市の担当課にて対応しております。市で対応できない内容については、大分市内にある大分県外国人総合相談センターや、業務を所管する機関をご紹介します。
7	第5章 施策の方向性と施策	学生のグローバル教育は、世界に通用する人材の育成に、今後ますます重要になってくると思う。大分市はアメリカオースチン市と姉妹都市であることを活かし、高い英語力とグローバルな視点で物事を考えられる学生を育成していくことが必要だと考える。 また小中学校の英語の授業において、英会話を中心としたより実践的な英語教育を行うべきではないか。	施策2-1において、市内に在住する外国籍市民との多様な交流事業や、姉妹友好都市との交流などにより、異文化理解の機会を設け、グローバル社会に対応した人材を育成に取り組むこととしております。 また、小中学校における外国語科等の授業では、外国語指導助手(ALT)を活用し、児童生徒がコミュニケーションを行う目的、場面、状況などを意識して、互いの考えや気持ちを伝え合うなどの学習活動の充実に努めております。 今後とも、更に進展するグローバル社会で活躍できる人材の育成に努めてまいりたいと考えております。
8	施策2-1：国際化を担う人材の育成	人口減少が進むなか、魅力ある教育プログラムが充実していることは、子育て世代の人たちが居住地を選択するうえで大きな要素となる。 昨年、市内の中学生を対象に、英語教育の一環としてALTと英語でのイングリッシュキャンプを実施したそうだが、こうした取組は市の国際化推進においても重要であることから、今後、更に規模を拡大し、大分市のグローバル教育環境がさらに充実していくことを期待する。	施策2-1において、英語によるコミュニケーション能力の育成、異文化理解の機会を設け、グローバル社会に対応した人材を育成に取り組むこととしております。 令和6年度、希望する市立小中学校において実施したイングリッシュ・キャンプにつきましては、実施方法等、より良い方法を検討してまいります。 今後とも、更に進展するグローバル社会で活躍できる人材の育成に努めてまいりたいと考えております。

9	<p>第5章 施策の方向性と施策</p> <p>施策2-2：地域における多文化共生の促進</p>	<p>知り合いの外国人が、日本人との関わりがなく寂しがっている。市が交流の場を設ければ、外国人も住みやすい場所になるのではないかな。</p>	<p>本市では、ワールドフェスタなどのイベントのほか、学校、職場以外で地域とつながる場となる地域日本語教室を開催するとともに、団体が行う多文化共生イベントに対する助成などにより、交流の場の創出に努めております。今後も、外国人、日本人ともに交流できる機会の提供に取り組んでまいります。</p>
10		<p>インバウンド観光を推進するうえで、大分市に魅力的な観光スポットが少ないことが課題だと感じる。別府市に来た観光客を大分市にも来てもらうような取り組みができれば大分に来てくれる人も増えるのではないかな。</p>	
11	<p>第5章 施策の方向性と施策</p> <p>施策3-1：インバウンド観光の推進</p>	<p>別府、湯布院、臼杵などの観光地まで一時間圏内にあることが大分市の魅力であると考えます。大分市を拠点に周辺市を観光する観光プランで大分市への観光客を増やせるのではないかな。</p>	<p>国際観光船誘致促進協議会などの周辺市と構成する協議会等で広域観光ルートを周知するとともに、国外の商談会に参加するなどインバウンド観光の拡大に取り組んでおります。今後も、大分県や周辺市を含む関係団体等と連携し、誘客に向けた観光プロモーションを行ってまいります。</p>
12		<p>宿泊客数の目標が設定されているが、単に宿泊客数を増やすだけでなく1人当たりの消費単価を上げるという視点も大事になってくる。大分市には外国人観光客に好まれる体験型観光プログラムが少なく感じる。大分市が持つ資源に付加価値を加え、魅力ある観光プログラムができれば良いのではないかな。</p>	<p>インバウンドの観光消費拡大は本市としても重要であると考えており、本市の様々な観光資源の魅力発信・認知度向上に向けSNS等を効果的に活用した情報発信に努めてまいります。いただいたご意見については今後の参考とさせていただきます。</p>